



9.2 リリースノート

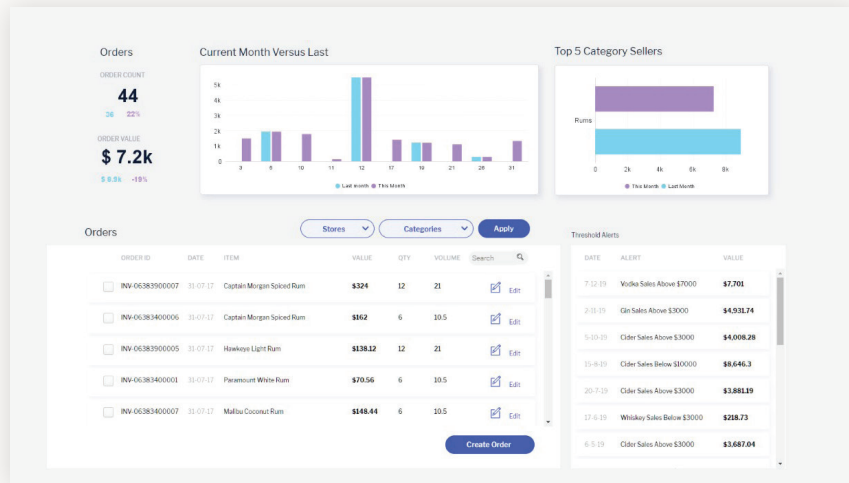
2020年6月

主要なハイライト

JavaScript API v3

新しく、改善されたJavaScript APIは、Yellowfinと他のアプリケーションの複雑な統合を実現します。新しいバージョンには、更新されたUIや、より豊富な関数およびイベントのセットが含まれています。新しいAPIは、Yellowfin コンテンツの組み込みに使用できるほか、ダッシュボードの強化およびカスタマイズのために、ダッシュボードコードモードで使用することもできます。

API v3は、v2を置き換えることに注意してください。既存のAPIは継続してサポートされますが、新規ユーザー様には新しいAPIの使用を、既存のユーザー様には、新機能や改善されたUIを活用できるように、v3への移行検討を推奨します。



上部2つのグラフは、JavaScript APIを使用して外部アプリケーションに組み込まれています。

JavaScript 統合

新しいJavaScript APIを使用すると、既存のWebアプリケーションにYellowfin コンテンツを組み込み、操作できます。レポートと合わせて、ダッシュボード全体の統合も可能です。

コードモードでのJavaScript

同様のAPIを使用して、カスタムユーザーエクスペリエンスの構築や、Yellowfin ダッシュボードのコードモードに、アプリケーションロジックを組み込むことができます。

様々な組み込み方法

リンクの埋め込み、または高度なAPIのいずれかの方法を使用して、JavaScript APIでコンテンツを組み込みます。

- リンクの埋め込み - Yellowfin アプリケーションから埋め込みリンクを取得し、レポート、グラフ、ダッシュボードを既存のアプリケーションに組み込みます。様々なパラメーターを使用することで、組み込んだコンテンツの外観や動作をさらに制御できます。
- 高度なAPI - 高度なAPI関数の豊富なセットを使用して、組み込んだコンテンツをより動的かつ柔軟に制御できます。

詳細情報

JavaScript API v3について、より詳細な情報は、[こちら](#)を参照してください。

Yellowfin 9.2に導入された主要な機能強化点:

- 新しいJavaScript API
- Rest API
- マルチタブ機能
- ステップの変化シグナル

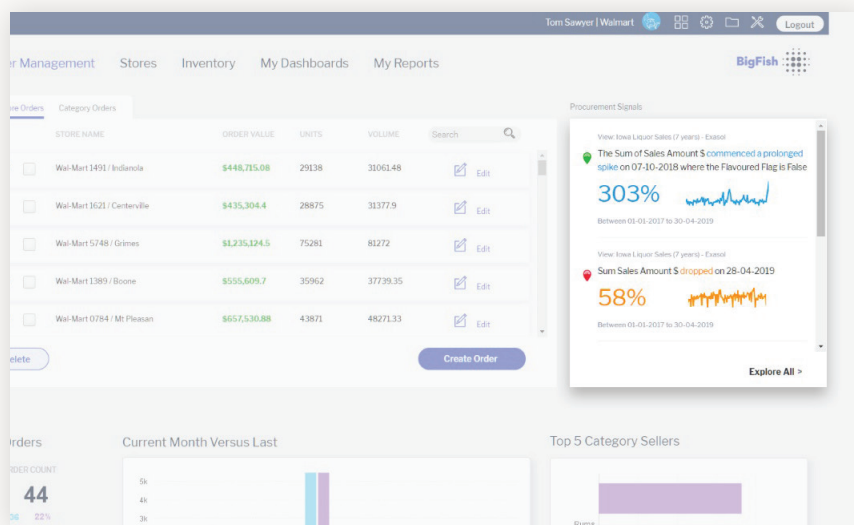
主要なハイライト

REST API

バージョン9.2では、新しいREST APIが導入され、バックエンドプロセスの自動化や、プログラムによる管理タスクの実行およびコンテンツの管理を求めるシステム管理者にサポートを提供します。重要点として、REST APIは、開発者にYellowfin コンテンツへのアクセスを提供することで、Yellowfin シグナル、ストーリー、タイムライン通知などを統合したカスタムエクスペリエンスの構築を可能にします。

新しいRESTサービスは、今後のリリースで順次追加される予定です。

現在利用可能なサービスについては、[こちら](#)を参照してください。



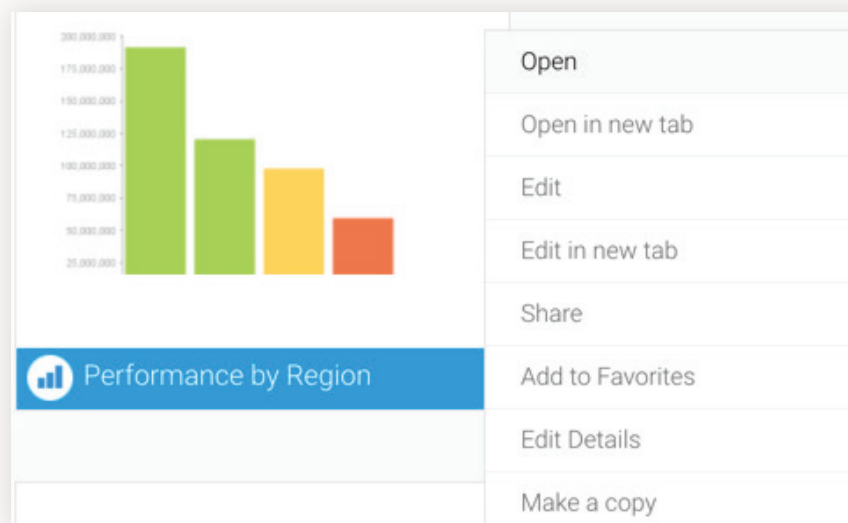
REST APIを使用して外部アプリケーションに組み込まれたYellowfin シグナルの例

マルチタブ機能

マルチタブ機能は、同じブラウザ内の複数のタブやウィンドウで、Yellowfinの使用を可能にします。これは、コンテンツを複数のタブで同時に開き、使用できることを意味します。なお、データ破損を防ぐために、あるタブで編集されているコンテンツを、他のタブで編集できないようにする対策が講じられています。

コンテンツを新しいタブで開いたり、編集したりできるオプションをUIに追加しました。例えば、閲覧ページやタイムライン上のコンテンツアイテムのポップアップメニューからアクセスできます。

マルチタブ機能の使用や、サポートの有効化について、より詳細な情報は、[こちら](#)を参照してください。

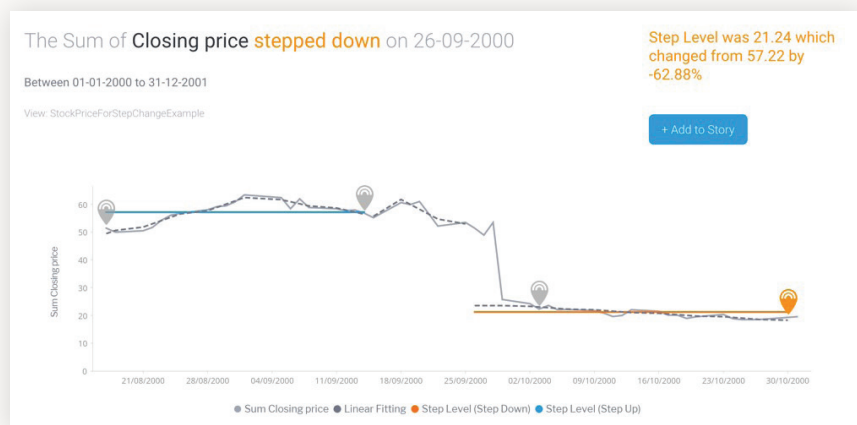


主要なハイライト

ステップの変化シグナル

シグナルの包括的な目標は、データに関連する変化の発見プロセスを自動化することです。これらの変化には様々な形式があり、それぞれがビジネスに役立つ可能性のあるインサイトを示します。各変化には特定のパターンがあり、アルゴリズムの役割は任意のデータ内でこれらのパターンを特定することです。さらにアルゴリズムを追加することで、シグナルは、より多くの異なるパターンを検出できるようになり、ユーザーに潜在的な新しいインサイトを通知することができます。

ステップの変化は、シグナルの最新アルゴリズムであり、急増、急減、異常値、変動の変化、合計や平均の変化、傾向の変化、新規喪失属性などの外れ値を検出するアルゴリズムを結合します。ステップの変化は、時系列がひとつの「安定した」状態から、別の状態に移るときに発生します。その状態が高い場合は「ステップアップ」、低い場合は「ステップダウン」と呼びます。



ドットコムクラッシュにおけるApple株価で特定されたステップの変化

「Yellowfinは、常に最新のアナリティクス機能の組み込みを求めるソフトウェア企業をサポートするために、ゼロから設計されています。これは、わたしたちが積み重ねてきたものではなく、わたしたちのDNAに組み込まれています」と、Yellowfin CTO Brad Scarffは言います。

「バージョン9では、優れたアクション志向のダッシュボード、真に自動化されたインサイトディスカバリー、魅力的なデータストーリーテリングやコラボレーションなど、すべてに堅牢なガバナンスとセキュリティを搭載し、組み込みソリューションを市場に投入するために必要な様々な機能と合わせて、ソフトウェア企業のユーザー様に卓越した機能を提供します。

9.2リリースでは、さらに基準を引き上げ、開発者は、最小限の労力とコーディングで、ユーザーに魅力的な組み込みアナリティクスエクスペリエンスを構築するための、あらゆるツールを自由に使用できるようになりました。さらに詳細な作り込みを求める開発者のために、Yellowfin プラットフォームのすべてのコンポーネントは、完全に拡張可能で、ニーズを正確に満たすように調整できます。」

機能強化と改善点

Yellowfin 9.2におけるすべての機能強化と変更については、以下の一覧を参照してください。

API	
JavaScript API	Yellowfin 9でベータ版として導入された JavaScript API は、Yellowfin 9.2で完全にサポートされます。豊富な機能を備えたAPIには、更新されたUIと、様々な関数やイベントのセットが含まれています。新APIは、Yellowfinの組み込みや、Yellowfin ダッシュボードコードモードで使用できます。
REST API	Yellowfin 9.2では、新しく REST API が導入され、バックエンドプロセスの自動化や、プログラムによる管理タスクの実行およびコンテンツの管理を求めるシステム管理者にサポートを提供します。重要点として、REST APIは、開発者にYellowfin コンテンツへのアクセスを提供し、Yellowfin シグナル、ストーリー、通知などを統合したカスタムエクスペリエンスの構築を可能にします。
ユーザーエクスペリエンス	
複数のブラウザタブおよびウィンドウでの使用	新しい機能が追加され、Yellowfinを同じブラウザの複数のタブやウィンドウで使用できるようになりました。なお、データ破損を防ぐために、安全確認が施されています。これは、同じコンテンツが複数のタブで同時に編集されるのを防ぎます。
タイムラインイベントカードメニュー	Yellowfin コンテンツを言及したり、リンクを含むタイムラインカードに、メニューアイコンが表示されるようになりました。このメニューオプションから、同じまたは別のタブでコンテンツを開くことができます。
Yellowfin ダッシュボードおよびプレゼント	
関連レポート	関連レポート機能を再実装しました。これにより、完全なレポートを表示することなく、リンクとしてレポートをダッシュボードに追加できます。

ダッシュボードウィジェットによるイベントトリガー	アクションボタン機能を、他のすべてのダッシュボードキャンバスウィジェットへ拡張しました。ウィジェットとは、テキスト、図形、イメージ、フィルターなど、ダッシュボードに追加できるダッシュボードオブジェクトです。すべてのダッシュボードウィジェットに、アクションを実装できるようになりました。これにより、ウィジェットをクリックすることが、イベントのトリガーになります。実装できるイベントのタイプには、特定のサブタブへの移動、ダッシュボードやフィルターのリセット、レポートや外部リンクへの移動などが含まれます。
新しいアクションイベント	アクションボタンおよび他のすべてのウィジェットに、新しいイベントを導入しました。これには、外部ページへ移動する「URLへ移動」、ダッシュボード内の任意のサブタブに移動する「サブタブへ移動」が含まれます。
レポートメニューの表示	レポートオブジェクト上でポップアップするメニューの表示・非表示を制御する、新しい設定を追加しました。これらの設定は、常にレポートメニューを表示、常にレポートメニューを非表示、ユーザーがマウスオーバーした時のみ表示、するように設定できます。これらの設定を使用して、ダッシュボードのレポート上でポップアップするメニューの表示・非表示を制御できます。
レポートカラム(列)の並べかえ	ダッシュボード上のレポートの表内で、レポートカラム(列)を昇順、または降順に並べかえることができます。
フィルターリセット制御	ダッシュボードのプロパティに新しく追加されたトグルは、フィルターウィジェットのリセットボタンの制御を変更し、ダッシュボード全体をリセットします。
レポート移動時にフィルター値を保持	レポートページを開いたときに、ダッシュボードに適用されたフィルター値を保持するフィルター機能を再導入しました。さらに、ダッシュボードに戻るナビゲーションボタンを追加しています。
フィルター入力スタイル	ダッシュボードでレポートフィルターの表示スタイルを変更できる機能を、ダッシュボードビルダーにも追加しました。これにより、入力スタイルをチェックボックス、一覧、ポップアップ、ドロップダウン、ラジオボタンに変更できます。
テキストウィジェットURL	改善されたダッシュボードビルダーでは、テキストウィジェットから外部、または内部のURLへリンクを作成できます。
デフォルトフィルターブックマーク	ダッシュボードを最初にロードした時、またはフィルターをリセットしたときに、自動的に適用される個人的なデフォルトフィルターブックマークを保存できます。
ダッシュボードおよびプレゼンのフルスクリーンモード	公開されたダッシュボードおよびプレゼンテーションを、フルスクリーンモードで表示できます。

プレゼントツールバー	公開されたプレゼンテーションに、新しいプレゼントツールバーを追加しました。このツールバーには、プレゼンテーションをお気に入りに登録したユーザーの表示や、ユーザーアクセスの設定、プレゼンテーションを他のユーザーと共有できるオプションがあります。
フィルターボタンの配置場所	フィルターパネル内で「適用」ボタンの配置場所を選択する設定を再導入しました。ボタンおよびその他の制御をオプションを、パネルの上部、または下部、または両方に配置できます。
Yellowfin データ準備	
ビューアクセスレベルでのカラム(列)制限	「参照および作成の制限」アクセスレベルは、ビューカラム(列)へのアクセスに、さらなる制限を提供します。これにより、権限を付与されたユーザーのみが、制限されたカラム(列)を使用してレポートを作成し、これらのカラム(列)をレポートで参照することができます。他のユーザーは、これらのカラム(列)を閲覧することができません。
ビューアクセスレベルの名称変更	ビュービルダー設定配下にある「制限付き」アクセスレベルは、「作成の制限」に名称を変更しました。
InterSystems IRIS データ接続	Yellowfinは、InterSystems IRISデータベースをサポートします。
Yellowfin シグナル	
ステップの変化シグナル	新しいステップの変化シグナルを、一般的に利用できるようになりました。外れ値検出グループに属するステップの変化は、時系列がひとつの「安定した」状態から、別の状態に移るときに発生します。これらの状態は高く(ステップアップ)、または低く(ステップダウン)なります。このシグナルに関連する高度なパラメーターも導入され、ユーザーのニーズに合わせたアルゴリズムを構成することができます。
シグナルパラメーターの名称変更	外れ値アルゴリズムの構成に使用する「古いシグナルの通知」パラメーターは、「古いシグナルの通知をしない」に名称を変更しました。
Yellowfin データディスカバリー	
ディスクに保存ブロードキャスト	ブロードキャストのスケジュールに新しいタイプを追加しました。「ディスクに保存」ブロードキャストは、レポートをローカルサーバパスに保存するようスケジュールを設定できます。
計算フィールドの説明	計算フィールドに新しいカラム(列)の書式設定が追加され、フィールドの目的や内容を明確に説明し、レポート作成者の理解をサポートします。

計算フィールドの結果のタイプ	計算フィールドの結果のカラム(列)のデータ型を、数値型(Numeric)、ブーリアン型(Boolean)、テキスト、日付から定義できます。この場合、システムは検証テストを実行しません。 システムがデータ型を決定する「自動検出」オプションを選択することもできます。
レポートプレビューおよびアクティブロウ(行)数のデフォルト制限	新しいシステム構成設定が追加され、レポートビルダーで構築されるデータをプレビューするためのロウ(行)数と、アクティブなレポートに返される結果のロウ(行)数のデフォルト制限を定義できます。これらの設定は、すべてのレポートにデフォルト制限を適用できますが、これは個別のレポートレベルで変更可能です。
動的フィルター値	ディメンション(次元)フィルターに最初の値を選択するレポートフィルターに、新しい設定を導入しました。これは例えば、アクセスフィルターによる制限など、ユーザーに利用可能なデフォルト値が無い場合に有効です。
スケジュール設定された実行の履歴	スケジュール設定されたタスクの過去の実行を複数表示できる機能を追加しました。
ブロードキャストの受信者およびステータス	ブロードキャストなど、コンテンツを配信するスケジュール設定されたタスクに、受信者一覧を追加しました。各実行時に、コンテンツを受信したユーザーと、受信できていないユーザーをトラッキングします。配信に失敗した場合は、エラー内容を確認できます。
SQLエラーのプレビュー	レポートビルダーのSQL生成機能が強化され、レポートがエラーを生成しても、SQL文を表示できるようになりました。
コンテンツフォルダーのバージョン履歴	すべての新規コンテンツフォルダーのバージョン履歴は、デフォルトで「最新のバージョンのみ」に設定され、履歴レコードを保存しないことで、大量のデータの生成を防ぎます。
軸書式のグローバル設定	システム構成レベルで、グラフの軸書式のカラム(列)設定を指定できるようになりました。システム管理者は、数値軸の単位を要約するか、カスタム書式を定義するかを選択できます。この設定は、軸の書式設定が「デフォルト」に設定されている場合、グラフに適用されます。
レポートキャンバスからのグラフ編集	レポートのデザインキャンバスから特定のグラフを編集できる機能を再実装しました。
非公開レポートの共有	新しく追加されたユーザーロール権限により、レポート作成者が、他のユーザーと非公開レポートを共有できないように制限します。

インポートしたグラフのデフォルト書式

Yellowfin 9では、グラフおよびレポートにデフォルトで新しい書式設定を適用することで、刷新された外観を提供します。新しく追加した機能では、レポートをエクスポートしたバージョンのデフォルト書式を、インポートしたグラフで維持することができます。

SOAP Webサービス

GETUSERGROUPS webサービス

新しいGETUSERGROUPS webサービスを追加しました。これは、ユーザーが所属するグループの情報を取得します。

シグナルセッションオプション

新しいセッションオプションパラメーターが追加され、SSOログイン後のエントリーポイントをシグナルページに設定できます。

Webサービスを使用した
コンテンツIDの取得

GETCONTENT webサービスに変更が追加され、コンテンツIDも取得できるようになりました。

コンテンツフォルダーのアクセス
レベルの変更

コンテンツを管理するwebサービスである、ADDTOACLとDELETEDFROMACLが強化され、アクセスレベルをサポートするようになりました。これにより、コンテンツフォルダーに追加、または削除するアクセスレベルを正確に指定できます。



Things change. Know why.

Yellowfinは、自動化で強化されたワールドクラスの製品スイートを提供する、ビジネスインテリジェンスとアナリティクスのグローバルソフトウェアベンダーです。Yellowfinは、世界をリードするアナリスト企業から、イノベーターの評価を得ています。75の国々に渡り、27,000を超える組織で、300万人を超えるエンドユーザーが、日々Yellowfinを使用しています。より詳細な情報は、Yellowfinのウェブサイトをご確認ください。 yellowfin.co.jp

東京本社
〒103-0016
東京都中央区日本橋小網町11-8
The ParkRex KOAMICHO Bldg
5F

Tel: 03-6667-0282

大阪オフィス
〒530-0002
大阪府大阪市北区曾根崎新地
1-3-22
WeWork御堂筋フロンティア

Tel: 06-7777-3855